

問題 6

正解

4

難易度

A

【出題内容】

理論（正誤） 総合原価計算

【解 説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

ア. 誤

加工費について期末仕掛品の完成品換算量を計算することが困難な場合、当期の加工費総額は、すべてこれを完成品に負担させることができる。（基準24(2)4) P108

イ. 正

（基準22） P143、147

ウ. 正

（基準26） P134

エ. 誤

連産品の価額は、連産品の正常市価等を基準として定めた等価係数に基づき、一期間の総合原価を連産品にあん分して計算する。（基準29） P153

以上より、正しい記述はイ、ウであり、正解は4となる。

問題 6

正解

1

難易度

A

【出題内容】

理論（正誤） 個別原価計算，総合原価計算

【解 説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．正

(基準21) *P84*

イ．正

(基準22) *P143、147*

ウ．誤

組別総合原価計算は，異種製品を組別に連続生産する生産形態に適用する。組別総合原価計算にあつては，一期間の製造費用を組直接費と組間接費又は原料費と加工費とに分け，個別原価計算に準じ，組直接費又は原料費は，各組の製品に賦課し，組間接費又は加工費は，適当な配賦基準により各組に配賦する。(基準23) *P142*

エ．誤

個別原価計算は，種類を異にする製品を個別的に生産する生産形態に適用する。(基準31) *P84、86*

以上より，正しい記述はア，イであり，正解は1となる。

問題 5

正解

4

難易度

A

【出題内容】

理論（正誤） 総合原価計算（副産物の評価）

【解 説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

ア. 誤

副産物で、そのまま外部に売却できるものは、見積売却価額から販売費および一般管理費又は販売費、一般管理費および通常の利益の見積額を控除した額を副産物の価額とする。

(基準28(1)) P160

イ. 正

(基準28(2)) P160

ウ. 正

(基準28(3)) P160

エ. 誤

副産物で、加工の上自家消費されるものは、これによって節約されるべき物品の見積購入価額から加工費の見積額を控除した額を副産物の価額とする。(基準28(4)) P160

以上より、正しいものはイウであることから、正解は4となる。

問題 5

正解

6

難易度

A

【出題内容】

理論（正誤） 総合原価計算

【解 説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

ア. 誤

単純総合原価計算、等級別総合原価計算および組別総合原価計算は、いずれも原価集計の単位が期間生産量であることを特質とする。すなわち、いずれも継続製造指図書に基づき、一期間における生産量について総製造費用を算定し、これを期間生産量に分割負担させることによって完成品総合原価を計算する点において共通する。（基準24） *p104*

イ. 誤

会計年度末においては、当該会計期間に発生した固定費額は、これを期末の仕掛品および製品と当年度の売上品とに配賦する。（基準30） *p236*

ウ. 正

（基準25） *p136, 137*

エ. 正

（基準22） *p143, 147*

以上より、正しい記述はウ、エであり、正解は6となる。

↓ 「期間投入量」としても、文章の意味が通るように思えるかも知れないが、
「原価集計単位」とは、あくまでも、原価を集計する「器」のことであり、
そのように考えると、「インプット」を表す「期間投入量」ではなく、
「アウトプット」を表す「期間生産量」が適切である。

問題 5

正解

4

難易度

A

【出題内容】

理論（正誤） 総合原価計算

【解 説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

ア. 誤

軽微な仕損品は、これを売却して得た収入を、原価計算外の収益とすることができる。

(基準28) *p160. 同脚注1*

イ. 正

(基準24(2)6) *p180 無視法*

ウ. 正 *p105. 自分で数値例を作って考えてみるという。*

エ. 誤

連産品の原価計算において、必要ある場合には、連産品の一種又は数種の価額を副産物に準じて計算し、これを一期間の総合原価から控除した額をもって他の連産品の価額とすることができる。(基準29) *p152*

以上より、正しい記述は、イ、ウであり、正解は4となる。

問題5

正解

1

難易度

B

【出題内容】

総合原価計算（純粋先入先出法、非度外視法）

【解 説】

やや手数を要するものの、基本的な問題であるため、正解していただきたかった。

1. 修正先入先出法

(1) 完成品総合原価の計算

直接材料費 修正FIFO				加 工 費 修正FIFO			
月初	800個	完成	5,000個	月初	200個	完成	5,000個
	632,000円		4,160,000円		90,000円		2,442,000円
当月	5,200個		(差額)	当月	5,420個		(差額)
	4,368,000円	正仕	300個		2,655,800円	正仕	120個
			252,000円				58,800円
	(@840円)	異仕	200個		(@490円)	異仕	100個
			168,000円				49,000円
		月末	500個			月末	400個
			420,000円				196,000円

非度
直接材料費分と
加工費分を
足す!!

正常仕損費			
合計	4,900個	完成	*1) 4,200個
			255,150円
*2) 297,675円		異仕	200個
			12,150円
(@60.75円)		月末	500個
P130			30,375円

*1) 完成5,000個－月初800個

*2) 直接材料費252,000円－評価額*3) 13,125円
＋加工費58,800円

*3) 評価額(4,375円÷100個)×正常仕損量300個

仕損を見たら「評価額」!
P122

完成品総合原価：直接材料費4,160,000円＋加工費2,442,000円＋正常仕損費255,150円

＝6,857,150円

(2) 完成品単位原価の計算

完成品総合原価6,857,150円÷完成品5,000個＝1,371.43円

2. 純粋先入先出法 P107

(1) 完成品総合原価の計算

直接材料費 純FIFO				加工費 純FIFO			
月初	800個	月初完成	800個	月初	200個	月初完成	200個
	632,000円		632,000円		90,000円		90,000円
当月	5,200個	当月完成	4,200個	当月	5,420個	月初完成	600個
			3,528,000円				294,000円
						当月完成	4,200個
							2,058,000円
4,368,000円		正仕	300個	2,655,800円		正仕	120個
			252,000円				58,800円
(@840円)		異仕	200個	(@490円)		異仕	100個
			168,000円				49,000円
		月末	500個			月末	400個
			420,000円				196,000円

この個数
分けを
いかり考えて
ほしい。

正常仕損費			
合計	4,900個	完成	4,200個
			255,150円
297,675円		異仕	200個
(@60.75円)			12,150円
		月末	500個
			30,375円

当月着手完成品総合原価：直接材料費3,528,000円＋加工費2,058,000円

＋正常仕損費255,150円＝5,841,150円

(2) 当月着手完成品単位原価の計算

完成品総合原価5,841,150円÷当月着手完成品4,200個＝1,390.75円

3. 完成品単位原価の差額

純粋先入先出法1,390.75円－修正先入先出法1,371.43円＝19.32円

以上より、正解は1となる。

問題 8

正解

2

難易度

A

【出題内容】

連産品の原価計算（NRV法，逆進推定）

【解 説】

製品Xの連結原価按分額を算定し、逆進して分離前の連結原価を算定していただいたかった。

1. 製品Xの連結原価按分額の計算（単位：円）

	製品X
売上高	1,200,000,000
売上原価	
連結原価按分額	∴ 787,500,000
個別実際加工費	*1) 180,000,000
売上総利益	232,500,000

差額で算定(逆進)

*1) 個別正常加工費200,000,000円－20,000,000円

2. 分離前の連結原価の計算（(1)，(2)は解く順番を示す。）

連結原価

1,600,000,000円	X *1) 1,000,000,000円
↓	↑ (1) 0.7875
×0.7875	787,500,000円
↓	Y *2) 200,000,000円
(2) 1,260,000,000円	Z *3) 400,000,000円

*1) 売上高1,200,000,000円

－個別正常加工費200,000,000円

*2) 正常売価6,000円×生産数量40,000トン

－個別正常加工費40,000,000円

*3) 正常売価7,000円×生産数量60,000トン

－個別正常加工費20,000,000円

按分は、正常市価および
正常個別加工費を利用する。(P153)

以上より、正解は2となる。

資料3.(2)には、「市価基準」と書かれているが、「追加加工があり、かつ、分離点における正常市価が存在しない場合」(P153)に該当することに気付きたい。
テキスト的には、上記の計算方法は、「NRV法」(P153)という呼称ではあるが、基準29原文を読むと、この方法も広い意味では「市価基準」と言えるであろう。(原文の「～その正常市価とみなし、～」という文言から。)

問題7 正解 4

難易度 A

【出題内容】

計算 総合原価計算（等級別総合原価計算（第3法）、正常仕損と異常仕損） 原価計算 P158

【解説】

平易な問題であるため、確実に正答したい。

1. 直接材料費の計算

当月製造費用の按分		製品M	
積数合計 8,280個	M当積 ※) 3,180個	月初 300個	完成 4,950個
165,600千円	63,600千円	4,500千円	60,900千円
(@20千円)	L当積 5,100個	当月 5,300個	(差額)
	102,000千円	63,600千円	正損 50個
		(@12千円)	異損 100個
			1,200千円
			月末 500個
			6,000千円

製品L	
月初 200個	完成 5,000個
当月 5,100個	
	月末 300個

※) 製品M当月投入5,300個×等価係数0.6

2. 加工費の計算

当月製造費用の按分		製品M	
積数合計 9,122個	M当積 ※) 4,112個	月初 210個	完成 4,950個
912,200千円	411,200千円	15,120千円	398,320千円
(@100千円)	L当積 5,010個	当月 5,140個	(差額)
	501,000千円	411,200千円	正損 50個
		(@80千円)	異損 50個
			4,000千円
			月末 300個
			24,000千円

製品L	
月初 80個	完成 5,000個
当月 5,010個	
	月末 90個

※) 製品M当月加工5,140個×等価係数0.8

3. 製品Mの完成品単位原価（選択肢より、最終数値で円未満を四捨五入している。）

(直接材料費60,900千円+加工費398,320千円-正常仕損品評価額1,200千円)÷完成品量4,950個
=92,529.2...円 → 92,529円

以上より、正解は4となる。

短答テクニック

仕損品を見たら評価額を思い！
評価額も引き忘れた場合、1,200,000円÷4,950≒242円のアズレ
が生まれる。選択肢間で242円のアズレの粗み合わせは、4と5。
⇒5が引き忘れ。よって、4!

P122

4-8

問題 8

正解

1

難易度

A

【出題内容】

計算 総合原価計算（累加法、仕損の処理、追加材料の投入）

生産量が変化しない (P109、110~111)

【解説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

P110~111のパターンであると考えられる。
(物量単位1つ)

1. 第1工程の計算

原料A

FIFO

月初	600個	完成	3,200個
	692,000円		3,760,000円
当月	3,400個		
	4,012,000円	月末	800個
	(@1,180円) →		944,000円

原料B・加工費

FIFO

月初	200個	完成	3,200個
B:	250,000円		
加:	460,000円		11,360,000円
当月	3,400個		
B:	4,250,000円		
加:	7,820,000円		
計:	12,070,000円	月末	400個
	(@3,550円) →		1,420,000円

2. 第2工程の計算

「正常仕損は第2工程の終点で発生する。仕損費は適切な方法で良品に負担させる」との指示より、正常仕損費は完成品のみに負担させる。

P117、118

前工程費

FIFO

月初	600個	完成	3,200個
	2,770,000円		16,000,000円
当月	3,200個		
		正損	200個
	15,120,000円	月末	400個
	(@4,725円) →		1,890,000円

原料C・加工費

FIFO

月初	400個	完成	3,200個
C:	40,000円		
加:	520,000円		4,760,000円
当月	3,200個		
C:	320,000円		
加:	4,160,000円	正損	200個
計:	4,480,000円	月末	200個
	(@1,400円) →		280,000円

3. 売上総利益の計算

製品

FIFO

月初	1,000個	販売	3,400個
*1) 6,500,000円			22,070,000円
完成	3,200個		
	20,760,000円	月末	800個
	(@6,487.5円) →		5,190,000円

*1) 単位当たり原価6,500円/個×在庫量1,000個

売上総利益：売上高*2) 30,600,000円－売上原価22,070,000円＝8,530,000円

*2) 販売単価9,000円/個×販売量3,400個

以上より、正解は1となる。

問題 7

正解

3

難易度

A

【出題内容】

計算 連産品の原価計算（非度外視法，先入先出法，異常仕損，NRV法）

【解説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

1. 連結原価の計算

仕損品は終点発生であり，また，「異常仕損費は正常仕損費を負担しない」との指示より，正常仕損費は完成品のみが負担する。P117④-i、P131④

原料費 FIFO				加工費 FIFO			
月初	10kg	完成	*) 225kg	月初	2kg	完成	*) 225kg
	100,000円		∴ 2,035,000円		30,000円		∴ 3,152,000円
当月	300kg			当月	278kg		
		正損	25kg			正損	25kg
			225,000円				350,000円
	2,700,000円	異損	∴ 10kg		3,892,000円	異損	10kg
	(@9,000円)		90,000円		(@14,000円)		140,000円
		月末	50kg			月末	20kg
			450,000円				280,000円

正常仕損費				*) 連産品 A 100kg + 連産品 B 125kg
合計	225kg	完成	*) 225kg	
	225,000円		575,000円	
	350,000円	月末	0kg	
	<u>575,000円</u>		0円	

連結原価：原料費2,035,000円＋加工費3,152,000円＋正常仕損費575,000円＝5,762,000円

2. 連産品Bの連結原価按分額の計算（正常市価基準）

合計 5,000,000円	A *1) 1,750,000円	*1) 販売単価20,000円×完成100kg－正常250,000円
5,762,000円	B *2) 3,250,000円	*2) 販売単価30,000円×完成125kg－正常500,000円
(@1.1524円)	3,745,300円	

按分は、正常市価および
正常個別加工費を利用する。(P153)

3. 製品Bの完成品総合原価の計算

連産品Bの連結原価按分額3,745,300円＋実際個別費450,000円＝4,195,300円

以上より，正解は3となる。

製品原価の計算にあたっては、
実際個別加工費を加算する。(P153脚注2)

問題 6

正解

2

難易度

A

【出題内容】

計算 工程別総合原価計算（累加法、減損の処理、追加材料の投入）

生産量が増加 (P109, 112~113)

【解 説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

平均発生だが、度外視法であり、原料費の負担割合は、1:1となる(P119(1))。

1. 第一工程の計算

原料費		加工費	
月初+当月	完成 *1) 50,000 ℓ	月初+当月	完成 50,000 ℓ
~~59,000 ℓ~~ 52,500 ℓ	60,000千円	~~51,750 ℓ~~ 51,500 ℓ	70,000千円
初 4,095千円	減損 500 ℓ	初 *2) 994千円	減損 250 ℓ
当 58,905千円		当 *3) 71,106千円	
計 63,000千円	月末 2,500 ℓ	計 72,100千円	月末 1,500 ℓ
(@1.2千円)		(@1.4千円)	

*1) 月初仕掛品3,500 ℓ + 当月投入49,500 ℓ - 減損500 ℓ - 月末仕掛品2,500 ℓ

*2) 月初仕掛品直接労務費710千円 × (1 + 製造間接費予定配賦分40%)

*3) 当月製造費用直接労務費50,790千円 × (1 + 製造間接費予定配賦分40%)

2. 第二工程の計算

*1 前工程費+原料費		*2 加工費	
月初+当月	完成 *2) 99,000 ℓ	月初+当月	完成 99,000 ℓ
*1) 103,000 ℓ	173,250千円	100,200 ℓ	110,880千円
初 *3) 5,400千円		初 *5) 2,240千円	
当 *4) 174,850千円		当 *6) 109,984千円	
計 180,250千円	月末 4,000 ℓ	計 112,224千円	月末 1,200 ℓ
(@1.75千円)		(@1.12千円)	

*1) 月初仕掛品3,000 ℓ + 当月投入(前工程完成品50,000 ℓ + 追加投入原料50,000 ℓ)

*2) (月初仕掛品+当月投入)103,000 ℓ - 月末仕掛品4,000 ℓ

*3) 月初仕掛品原料費1,350千円 + 月初仕掛品前工程費4,050千円

*4) 当月製造費用原料費44,850千円 + 当月投入前工程完成品原価(60,000千円 + 70,000千円)

*5) 月初仕掛品直接労務費1,600千円 × (1 + 製造間接費予定配賦分40%)

*6) 当月製造費用直接労務費78,560千円 × (1 + 製造間接費予定配賦分40%)

第二工程の完成品原価：(前工程費+原料費)173,250千円 + 加工費110,880千円 = 284,130千円

以上より、正解は2となる。

*1) 第一工程完了品5,150 ℓ、第二工程始点投入溶液5,150 ℓに分割(P112)して解くのが筋であるが、1:1であり、分割して計算しても、分割せずに計算しても同じ結果になるため、分割せずに解いている。

*2) 第二工程始点投入材料(上記*1)の2種材の合計) × 加工進捗率にて計算。(P112)

問題 7

正解

3

難易度

B

【出題内容】

計算 総合原価計算（等級別・第3法、正常仕損の処理）

【解説】

直接材料費βの按分に注意して、何とか正答して欲しかった。

1. 直接材料費αの計算

製品A				製品B			
月初	60個	完成	3,000個	月初	100個	完成	2,000個
	7,560千円		362,760千円				
			(差額)				
当月	∴ 3,060個	正損	20個	当月	∴ 2,100個		
	367,200千円	月末	100個			月末	200個
	(@120千円)		12,000千円				

直接材料費α 787,200千円を、A(3,060個×0.6)とB(2,100個×1)に按分

2. 直接材料費βの計算

製品A				製品B			
月初	*1) 0個	完成	3,000個	月初	*2) 25個	完成	2,000個
	— 千円		724,800千円				
			(差額)				
当月	∴ 3,020個	正損	20個	当月	∴ 2,075個		
	724,800千円	月末	0個			月末	100個
			— 千円				

直接材料費β 1,554,800千円を、A(3,020個×0.6)とB(2,075個×1)に按分

*1) 月初加工進捗度0.5<材料β投入始点0.6より、直接材料費β進捗度は0である。

*2) (月初加工進捗度0.7-材料β投入始点0.6)÷(1-材料β投入始点0.6)より、直接材料費β進捗度は0.25である。

3. 加工費の計算

製品A				製品B			
月初	30個	完成	3,000個	月初	70個	完成	2,000個
	6,720千円		724,320千円				
			(差額)				
当月	∴ 3,040個	正損	20個	当月	∴ 2,090個		
	729,600千円	月末	50個			月末	160個
	(@240千円)		12,000千円				

加工費1,356,600千円を、A(3,040個×0.8)とB(2,090個×1)に按分

合計：1,811,880千円

問題 6

正解

2

難易度

A

【出題内容】

計算 総合原価計算（非度外視法，連産品（市価法））

【解 説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

1. Bを正常減損（平均発生）として処理する場合 (7, 1) P117 ⑧

加工費				正常減損費			
当月	9,500kg	完成	6,000kg	当月	9,000kg	完成	6,000kg
			50,220,000円				2,790,000円
		正損	500kg		4,185,000円	月末	3,000kg
			4,185,000円		(@465円)		1,395,000円
		月末	3,000kg				
			25,110,000円				

完成品総合原価：加工費50,220,000円＋正常減損費2,790,000円＝53,010,000円

月末仕掛品原価：加工費25,110,000円＋正常減損費1,395,000円＝26,505,000円

2. 完成品A，Bを連産品として処理する場合 (7, 1) P152

連結原価の把握				連結原価の按分（市価法）			
加工費							
当月	10,000kg	完成	7,000kg	完成	63,000,000円	A *1)	50,400,000円
			55,660,500円				44,528,400円
		月末	3,000kg		55,660,500円	B *2)	12,600,000円
					(@0.8835円)		11,132,100円

*1) A買取価格 8,400円/kg×完成品A6,000kg

*2) B買取価格12,600円/kg×完成品B1,000kg

3. 正誤判断

ア. 正しい。

イ. 誤り。 Bが正常減損で，工程の始点から終点に至るまで平均的に発生した場合，非度外視法によって計算した完成品原価は53,010,000円である。

ウ. 正しい。

エ. 誤り。 Bが完成品Aとともに工程の終点で分離される連産品であり，親会社は完成品Aを1kg当たり8,400円，完成品Bを1kg当たり12,600円で買い取る場合，完成品Bの完成品総合原価は11,132,100円である。

以上より，正しい記述はア，ウであり，正解は2となる。

問題 6

正解

6

難易度

B

【出題内容】

計算 総合原価計算（等級別、正常仕損がある場合の処理（第3法））

【解説】

第2法または第3法に関する指示が存在しないため、戸惑った受講生も多いであろう。しかし、比較的状況を整理しやすい第3法から検討すれば正答を導くことが可能であるため、諦めずに何とか正答して欲しかった。なお、第3法の場合、等価係数は、各等級製品の当月投入単位原価の比率から求めることができるが、解説では当月製造費用の按分までを示している。①②③の流れで解く。（逆進問題）

1. 原料費の計算

当月製造費用の按分

完成品と月末仕掛品への按分

完成品原価

PI47
「押し返す解き方」の
流れをイメージ。
本問は逆進。

原料費	
A	9,900,000円
B	6,160,000円

製品A（原料費） FIFO			
月初	20,000個	初→完	20,000個
	1,247,500円		1,247,500円 ←
当月	180,000個	当→完	155,000個
		当→仕	500個
			8,552,500円 ← ①
	9,900,000円		(*) @55円 ②
	(@55円)	月末	24,500個

完成品	175,000個
	9,800,000円

差額で算定
9,800,000 - 1,247,500

製品B（原料費） FIFO			
月初	10,000個	初→完	10,000個
	492,000円		492,000円 ←
当月	140,000個	当→完	120,000個
			5,280,000円 ← ①
	6,160,000円		(@44円) ②
	(@44円)	月末	20,000個

完成品	130,000個
	5,772,000円

差額で算定

*) $\frac{\text{完成品に含まれる当月製造費用} 8,552,500 \text{円}}{\text{当月投入完成品} 155,000 \text{個} + \text{正常仕損品} 500 \text{個}}$

製品A (@55円) : 製品B (@44円) = 製品A (1) : 製品B (0.8)

2. 加工費の計算

当月製造費用の按分

完成品と月末仕掛品への按分

完成品原価

1147
押込可解方?
流れをイメージ。
本問は逆進。

製品A (加工費) FIFO		製品B (加工費) FIFO	
月初 5,000個 215,000円	初→完 5,000個 215,000円 ← ①	月初 7,500個 258,000円	初→完 7,500個 258,000円 ← ①
当月 182,750個	当→完 170,000個 当→仕 500個	当月 126,500個	当→完 122,500個 当→仕 500個
7,310,000円 (@40円) ← ③	6,820,000円 ← ② (*) @40円	3,542,000円 (@28円) ← ③	3,430,000円 ← ② (@28円)
	月末 12,250個		月末 4,000個

差額で算定

差額で算定

完成品に含まれる当月製造費用6,820,000円

*) 当月投入完成品170,000個 + 正常仕損品500個

製品A (@40円) : 製品B (@28円) = 製品A (1) : 製品B (0.7)

問題 6

正解

5

難易度

B

【出題内容】

計算 総合原価計算 (減損率が安定している場合の処理, 異常仕損費, 累加法)

P125~129
↑製造日報(3月16日)の「工程を通じて加工進捗に応じて発生」より。

【解説】

1. 第一工程

原料費			加工費		
合計	10,000kg	完成 ∴ 6,000kg	合計 ∴ 8,000kg	完成	6,000kg
		156,000千円			750,000千円
260,000千円			1,000,000千円		
(@26千円)		異損 1,000kg	(@125千円)		異損 200kg
		月末 3,000kg			月末 1,800kg

P130

P130

第一工程完成品原価：原料費156,000千円＋加工費750,000千円＝906,000千円

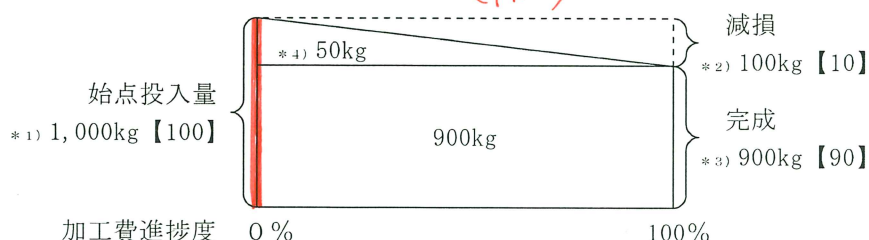
2. 第二工程

(1) 減損量の区分把握および当月加工量の計算

本問の生産状況を図で示すと、以下ようになる(【 】内の数値は、始点投入量100に対する減損分と歩留分を示す)。

ここには記載されていないが、下書き用紙には、まず、バースパターンの台形を書く。そのうえで①②③を書く。(P125)

① 完成品 (第一バッチ)



$$*1) \text{ 第一工程完成品 } 6,000\text{kg} \times \frac{\text{第一 } 1}{(\text{第一 } 1 + \text{第二 } 2 + \text{第三 } 3)}$$

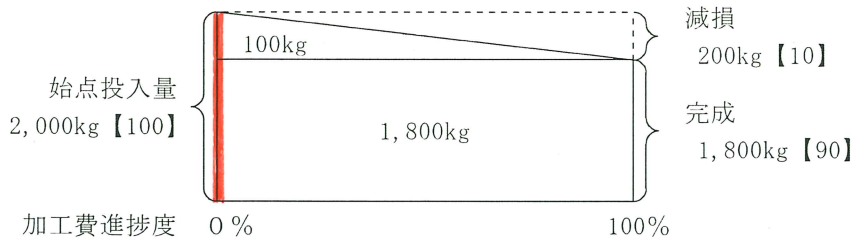
$$*2) \text{ 始点投入量 } 1,000\text{kg} \times \frac{【10】}{【100】}$$

$$*3) \text{ 始点投入量 } 1,000\text{kg} \times \frac{【90】}{【100】}$$

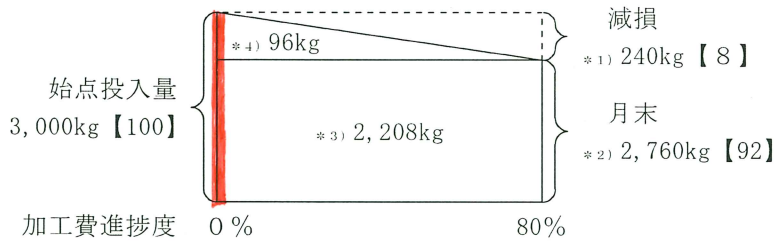
$$*4) \text{ 減損量 } 100\text{kg} \times \text{加工費進捗度 } 100\% \times 1/2$$

製造日報の記述から、総合原価計算のためのデータを抽出する、見慣れない形式の問題である。
(しかし、P85(ロット(バッチ)生産に対する製品別計算)の知識を活かし、
「総合原価計算では、バッチ(製造指図書)の違いは問題とならない。
つまり、それ以外の製造指図書に原価を集計するのではなく、
期間生産量に原価を集計する!」と考えて解いてほしい。

② 完成品 (第二バッチ)



③ 月末仕掛品 (第三バッチ)



$$*1) \text{ 始点投入量 } 3,000\text{kg} \times \frac{【8】}{【100】}$$

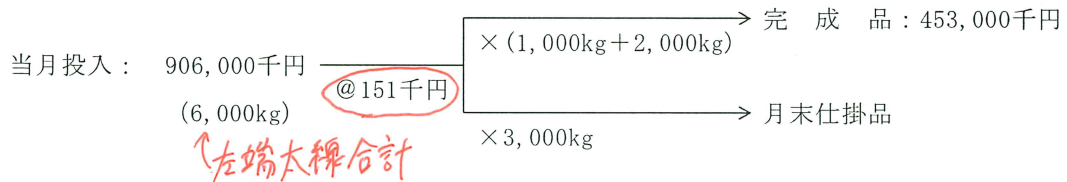
$$*2) \text{ 始点投入量 } 3,000\text{kg} \times \frac{【92】}{【100】}$$

$$*3) \text{ 月末仕掛品量 } 2,760\text{kg} \times \text{加工費進捗度 } 80\%$$

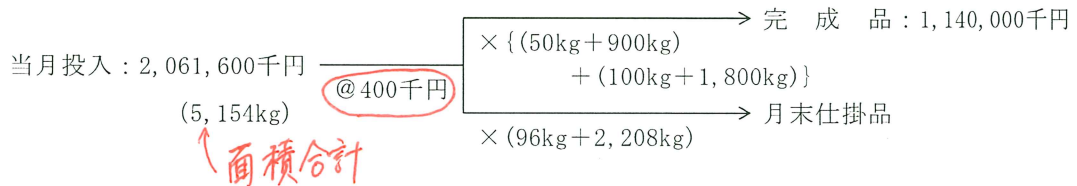
$$*4) \text{ 減損量 } 240\text{kg} \times \text{加工費進捗度 } 80\% \times 1/2$$

PI26
なお(資料)3より、非度外視法
であることが分かる

(2) 前工程費の配分



(3) 加工費の配分



(4) 完成品単位原価

$$\frac{(\text{前工程費 } 453,000\text{千円} + \text{加工費 } 1,140,000\text{千円})}{\text{完成品 (第一 } 900\text{kg} + \text{第二 } 1,800\text{kg})} = 590\text{千円}$$